



大会あいさつ

今日はお休みのところ、新座母親大会にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。ご覧のように、アーサー・ピナードさんのお話を楽しみに、地元はもとより、遠く県内だけでなく東京都内からも大勢の方が参加されています。この後の記念講演にご期待下さい。

私たちは1975年から毎年母親大会を開催し、今年で37回を迎えることができました。これはひとえに、「生命を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることを望みます」というスローガンに賛同する、地域の皆様をはじめ実行委員会の方々の協力によるものと、深く感謝いたします。今年は特に、不幸なアクシデントを乗り越えての開催だけに、皆様方のご協力に改めて感謝を申し上げます。

さて、日本母親大会はアメリカによる広島・長崎への原爆投下から9年後の1954年3月1日、太平洋のビキニ環礁でのアメリカの水爆実験で、日本のマグロ漁船が「死の灰」を浴びたことをきっかけに、「核戦争から子どもの生命を守ろう」と、1955年に世界で初めて声を上げた核兵器廃絶の運動でした。

今年3月11日に発生した東日本大震災、夏の台風によって被災された方々に、お見舞いを申し上げるとともに、その復旧・復興に日夜努力されている方々に、激励と連帯の気持ちを伝えたいと思います。

東日本大震災や台風による列島各地の被害の多くは、避けがたい天災によるものですが、7ヶ月経って今も収束を見ない福島原発の事故は、避けることができた人災ではないでしょうか。私たちは今、4たび「死の灰」の恐怖にさらされていると言っても過言ではありません。

原発推進のために、次々と明らかになった「やらせ公聴会」、今度の事故の報道の遅れなどに、怒りと不安は募るばかりです。中でも、小さいお子さ

んをお持ちの、お母さんたちのご心配は特別だと思います。

午前中の分科会でも話し合われたと思いますが、アーサー・ピナードさんには、「原爆、原発、そして、子どもたちは今」と題して、お話をさせていただくことになっています。お話を聞いて、今後「私たちは何をなすべきか」また、「どのように暮していけばいいのか」といった人生の指針にしていただければ幸いです。

以上簡単ではございますが、実行委員会を代表して開会のご挨拶といたします。ありがとうございました。

第37回新座母親大会実行委員会 市瀬長子